

(4) ①様式第4号-2 (報告書)

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 熊本大学教職大学院 熊本県教育委員会 熊本市教育委員会
※ 機構記入欄 No. : -	セミナー名：【NITS カフェ at 熊本大学教職大学院】 「持続可能で元気な学校づくりについて語ろう」
<b>テーマ：</b> 持続可能で元気な学校づくりについて語ろう  学校改革が進む中で、学校のアップデートが必要となっている。“学校まるごと ESD”というアプローチで子どもや教師に寄り添いながら「元気な学校づくり」を進める住田昌治氏。学校事務職員の立場から良好な人間関係を生み出し、働きやすい職員室改革を進める上部允敬氏。お二人を講師に迎え、「自分の立場から“カラフルな学校づくり”の具体策を出し合おう」というグループワークを行い、参加者が持続可能で元気な学校づくりを進めていくために具体的に必要なことを対話した。	
<b>内容：</b>  1 講演 「元気な学校は元気な教職員からーカラフルな学校づくりー」 (横浜市立日枝小学校長 住田昌治) 学び続ける人を元気づけ、学校の不自由を減らしていきたい。先生の Happy が子供の笑顔をつくる。そのためにも、健康であること、寝食を忘れないこと。お互いの違いを認め合い、その違いを尊重し合う「ケア」の文化を根付かせたい。1 学期始めにワークショップ (①「学校教育目標」②「年間計画・カリキュラム」③「授業づくり」④「研究」) をして、どんな学校にしたいか対話の場を設け、全教職員が参加する学校づくりをしている。校長のつくりたい学校を作るんじゃない！管理職は、サーバントリーダーシップを発揮し、ビジョンを共有し、学校教育目標の実現に向けて信頼して任せる。 2 講演 「学校事務職員発！職員室改革を通じた働き方改革」 (横浜市立日枝小学校事務職員 上部允敬) 「互いにひびきあう学校」という学校教育目標の実現のために、学校事務職員の立場から、「対話」を生み出す職員室の環境づくりを行なった。不要なものを廃棄し、机の配置を工夫し、意図的に動線を変えたり、席替えをしたりすることで対話でひびき合う職員室ができた。環境が変われば、意識が変わる、意識が変われば、働き方が変わる。 3 グループディスカッション 「自分の立場から“カラフルな学校づくり”の具体策を出し合おう」というテーマで、アイデアを出し合った。 4 パネルディスカッション パネリスト：住田昌治、上部允敬、太田恭司、前田康裕 ワークショップなどの対話で目的の合意形成と共有をし、信頼して任せていくことなどを通して、対象が教職員でも子供でも家庭・地域でも「やらされ感」でない当事者意識がうまれていくのではないかと。	
<b>成果：</b>  参加者に本会全体を通して、6 段階で評価をしてもらった。「6 大変良かった」(94.4%) 「5 良かった」(5.6%) と高評価であった。「対話を大切にし、ビジョンや思いを共有することの大切さを学びました。」「学校事務職員の立場からも学校教育目標の実現に向けて具体的に行動にうつしていきたいです。」等の感想があった。 【参加者数】熊本県市教育委員会：9 名 校長・教頭・主幹教諭・一般教員・事務職員：75 名 一般企業職員：2 名 熊本大学教員・院生・学生：19 名	
<b>アイデアや工夫したこと：</b>  ・参加者同士による対話が活性化できるように、名札を準備したり、テーブルの形に机を配置したりした。 ・参加者のアイデアが全員に共有できるように、実物投影機でアイデアを投影できるようにした。 ・飲み物を準備し、休憩時間を十分確保することで、参加者同士の親睦が深まるようにした。	

<写真・図など>



1 開会：100人以上の参加



2 住田昌治校長による講演



3 上部充敬学校事務職員による講演



4 グループ討議

「カラフルな学校づくりの具体策」について



5 アイデアの全体発表（16班分）



6 住田校長、上部学校事務職員、太田シニア教授、前田准教授によるディスカッション